大分合同新聞
ワークシート

年　　組　　氏名

大分合同新聞 2025年1月24(金) 朝刊 1面

県内宿泊者 最多508万人

24年

円安で訪日客初の100万人超

国内客も底堅い動き

大分県内の2024年の宿泊者数は延べ508万2801人で、23年に比べ58万9795人（13・1％）増えた。県が06年に統計を開始して以降、最多になった。コロナ禍を脱して観光需要の回復が進んだほか、円安で日本旅行をしやすくなった訪日客が初めて100万人を超えて底上げした。国内客も物価高の影響は見られたものの、底堅い動きを見せた。

県が21日に速報値を公表した。訪日客は108万1513人で、23年から29万3298人（37・2％）増えた。最多だった18年（89万4256人）を大きく上回った。23年4月に新型コロナウイルスを巡る水際対策が終了して以降、訪日需要が順調に伸び続け、24年は円安が進んだこともあり動きが加速した。

全ての国、地域で上回った。韓国が53万1689人で27・4％の増。全体の半数近くを占めた。24年10月から大分空港（国東市）と韓国・ソウル（仁川）の定期路線が毎日の運航に増便したことも後押しした。

東アジア以外からも伸びている。欧米豪を含む「その他外国」が7万2157人（67・8％）増で過去最多。ラグビーワールドカップ大分開催のあった19年（6万8044人）を上回った。

国内客は400万1288人で、23年から29万6497人（8・0％）増えて堅調だった。

最も多かったのは福岡の107万8674人で5・1％増。JRグループと官民が連携した大型誘客企画「福岡・大分デスティネーションキャンペーン」（4～6月）の効果も見られた。伸び率の高かった地域は▽四国 21・3％▽中部 14・2％▽中国 13・3％―など。

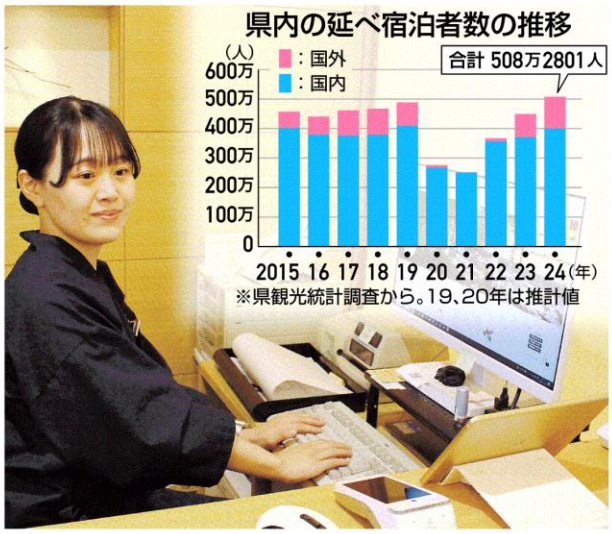
国内客はコロナ禍前の19年比では2・1％の減少。続く物価高や宿泊単価の上昇が影響し、上回るまでには至らなかった。

大分県観光政策課は「全体としては、観光事業者の努力で需要をうまく捉えることができた。25年は宇佐神宮御鎮座1300年などの行事があり、誘客につながるよう支援したい」と話した。

一方で旅館ホテルも他産業と同様に人手不足が深刻化しており、受け入れ態勢をどう維持していくかが課題になっている。

県旅館ホテル生活衛生同業組合（400社）の事務局は「宿泊者が増えるのはありがたいことだが、働き手が足りずに現場は1人当たりの労働量が増えている。賃上げや福利厚生の環境を整えるためにも、長期滞在の旅行客を増やし、消費額を上げる工夫が求められる」と話している。

（児屋野香純）



年末年始の繁忙期を控え、事務作業をする旅館のスタッフ＝昨年12月、別府市

メモ

県の観光統計調査は2021年から「従業員数10人以上の全施設」を対象に毎月、宿泊者を集計している。20年以前は「従業員数10人以上の主な170施設」で実施していた。19、20両年は現行の基準で推計した参考値として出している。24年の確報値は7月ごろにまとまる。

©大分合同新聞社　教育目的以外の無断転載・複製および頒布は禁止します。

大分合同新聞
ワークシート

年　　組　　氏名

大分合同新聞 2025年1月24(金) 朝刊 1面

〔問①〕大分県内の２０２４年の宿泊者数は延べ何人ですか。

〔問②〕うち、訪日客は何人ですか。

〔問③〕訪日客のうち、最も多く来県した国はどこですか。何人ですか。

〔問④〕国内客のうち、最も多く来た県はどこですか。何人ですか。

〔問⑤〕観光・宿泊者数をさらに増やす方法を考えよう。訪日客、国内客のそれぞれで考えてみよう。

©大分合同新聞社　教育目的以外の無断転載・複製および頒布は禁止します。